

PM

平成 28 年度 春期
プロジェクトマネージャ試験
午後 II 問題

試験時間

14:30 ~ 16:30 (2 時間)

注意事項

1. 試験開始及び終了は、監督員の時計が基準です。監督員の指示に従ってください。
2. 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開いて中を見てはいけません。
3. 答案用紙への受験番号などの記入は、試験開始の合図があってから始めてください。
4. 問題は、次の表に従って解答してください。

問題番号	問 1, 問 2
選択方法	1 問選択

5. 答案用紙の記入に当たっては、次の指示に従ってください。
 - (1) B 又は HB の黒鉛筆又はシャープペンシルを使用してください。
 - (2) 受験番号欄に受験番号を、生年月日欄に受験票の生年月日を記入してください。
正しく記入されていない場合は、採点されないことがあります。生年月日欄については、受験票の生年月日を訂正した場合でも、訂正前の生年月日を記入してください。
 - (3) 選択した問題については、次の例に従って、選択欄の問題番号を○印で囲んでください。○印がない場合は、採点されません。2 問とも○印で囲んだ場合は、はじめの 1 問について採点します。

〔問 2 を選択した場合の例〕

選 択 欄	問 1	問 2
	1 問選択	

注意事項は問題冊子の裏表紙に続きます。
こちら側から裏返して、必ず読んでください。

“論述の対象とするプロジェクトの概要”の記入方法

論述の対象とするプロジェクトの概要と、そのプロジェクトに、あなたがどのような立場・役割でかかわったかについて記入してください。

質問項目①は、プロジェクトの名称を記入してください。

質問項目②～⑤は、記入項目の中から該当する番号又は記号を○印で囲むとともに、（ ）内にも必要な事項を記入してください。複数ある場合は、該当するものを全て○印で囲んでください。

問 1 他の情報システムの成果物を再利用した情報システムの構築について

情報システムを構築する際、他の情報システムの設計書、プログラムなどの成果物を部分的又は全面的に再利用することがある。この場合、品質の確保、コストの低減、開発期間の短縮などの効果が期待できる一方で、再利用する成果物の状況に応じた適切な対策を講じることをあらかじめ計画しておかないと、有効利用することが難しくなり、期待どおりの効果が得られないことがある。プロジェクトマネージャ（PM）は、成果物の有効利用を図る上での課題を洗い出し、プロジェクト計画に適切な対策を織り込む必要がある。

そのためには、PM は、再利用を予定している成果物の状況を、例えば、次のような点に着目して分析し、情報システムの構築への影響を確認しておくことが重要である。

- ・ 成果物の構成管理が適切に行われ、容易に再利用できる状態になっているか。
- ・ 本稼働後の保守効率の観点から、成果物を見直す必要がないか。
- ・ 成果物を再利用するに当たって、成果物の管理元の支援が受けられるか。

成果物の有効利用を図る上での課題が見つかったときには、有効利用に支障を来さないようにするための対策を検討する。これらの結果を基に、成果物の再利用の範囲を特定した上で、再利用の方法、期待する効果などを明確にし、成果物の再利用の方針として取りまとめ、プロジェクト計画に反映する。

あなたの経験と考えに基づいて、設問ア～ウに従って論述せよ。

設問ア あなたが携わった情報システム構築プロジェクトにおけるプロジェクトの特徴、並びに他の情報システムの成果物を再利用した際の再利用の範囲・方法、及びその決定理由について、800字以内で述べよ。

設問イ 設問アで述べた成果物の再利用に関し、期待した効果、有効利用を図る上での課題と対策、及び対策の実施状況について、特に工夫をした点を含めて、800字以上1,600字以内で具体的に述べよ。

設問ウ 設問イで述べた期待した効果の実現状況と評価、及び今後の改善点について、600字以上1,200字以内で具体的に述べよ。

問2 情報システム開発プロジェクトの実行中におけるリスクのコントロールについて

プロジェクトマネージャ（PM）には、情報システム開発プロジェクトの実行中、プロジェクト目標の達成を阻害するリスクにつながる兆候を早期に察知し、適切に対応することによってプロジェクト目標を達成することが求められる。

プロジェクトの実行中に察知する兆候としては、例えば、メンバの稼働時間が計画以上に増加している状況や、メンバが仕様書の記述に対して分かりにくさを表明している状況などが挙げられる。これらの兆候をそのままにしておくと、開發生産性が目標に達しないリスクや成果物の品質を確保できないリスクなどが顕在化し、プロジェクト目標の達成を阻害するおそれがある。

PM は、このようなリスクの顕在化に備えて、察知した兆候の原因を分析するとともに、リスクの発生確率や影響度などのリスク分析を実施する。その結果、リスクへの対応が必要と判断した場合は、リスクを顕在化させないための予防処置を策定し、実施する。併せて、リスクの顕在化に備え、その影響を最小限にとどめるための対応計画を策定することが必要である。

あなたの経験と考えに基づいて、設問ア～ウに従って論述せよ。

設問ア あなたが携わった情報システム開発プロジェクトにおけるプロジェクトの特徴、及びプロジェクトの実行中に察知したプロジェクト目標の達成を阻害するリスクにつながる兆候について、800字以内で述べよ。

設問イ 設問アで述べた兆候をそのままにした場合に顕在化すると考えたリスクとどのように考えた理由、対応が必要と判断したリスクへの予防処置、及びリスクの顕在化に備えて策定した対応計画について、800字以上1,600字以内で具体的に述べよ。

設問ウ 設問イで述べたリスクへの予防処置の実施状況と評価、及び今後の改善点について、600字以上1,200字以内で具体的に述べよ。

〔 メ モ 用 紙 〕

[メ モ 用 紙]

[メ モ 用 紙]

6. 解答に当たっては、次の指示に従ってください。指示に従わない場合は、評価を下げる場合があります。

(1) **問題文の趣旨に沿って解答してください。**

- (2) 解答欄は、“論述の対象とするプロジェクトの概要”と“本文”に分かれています。“論述の対象とするプロジェクトの概要”は、2 ページの記入方法に従って、全項目について記入してください。
- (3) “本文”は、設問ごとに次の解答字数に従って、それぞれ指定された解答欄に記述してください。

・設問ア：800 字以内

・設問イ：**800 字以上** 1,600 字以内

・設問ウ：**600 字以上** 1,200 字以内

- (4) 解答は、丁寧な字ではっきりと書いてください。

7. 退室可能時間に途中で退室する場合には、手を挙げて監督員に合図し、答案用紙が回収されてから静かに退室してください。

退室可能時間	15:10 ～ 16:20
--------	---------------

8. **問題に関する質問にはお答えできません。**文意どおり解釈してください。

9. 問題冊子の余白などは、適宜利用して構いません。

10. 試験時間中、机上に置けるものは、次のものに限ります。

なお、会場での貸出しは行っていません。

受験票、黒鉛筆及びシャープペンシル（B 又は HB）、鉛筆削り、消しゴム、定規、時計（時計型ウェアラブル端末は除く。アラームなど時計以外の機能は使用不可）、ハンカチ、ポケットティッシュ、目薬

これら以外は机上に置けません。使用もできません。

11. 試験終了後、この問題冊子は持ち帰ることができます。

12. 答案用紙は、いかなる場合でも提出してください。回収時に提出しない場合は、採点されません。

13. 試験時間中にトイレへ行きたくなったり、気分が悪くなったりした場合は、手を挙げて監督員に合図してください。

試験問題に記載されている会社名又は製品名は、それぞれ各社又は各組織の商標又は登録商標です。なお、試験問題では、™ 及び ® を明記していません。

©2016 独立行政法人情報処理推進機構